

月刊

2015年(平成27年)
2月 Vol.182
大阪府議会議員 活動報告書

1997年6月創刊
1997年6月～9月：週刊
1997年10月～：月刊
発行部数累計：2,454,360部

ただいま活動中！
土井達也

はっきりの発言！
はっきり報告！

大阪府議会議員
都市整備・住宅まちづくり
常任委員会
府議会 大阪維新の会 幹事
大阪府国土利用計画審議会

土井達也Webサイト
<http://www.tdoi.net/>
110.333人

執筆・印刷：土井達也事務所
住所：〒599-0201 大阪府阪南市
尾崎町93-6尾崎山手ビル2F
TEL：072-471-7357
FAX：072-471-8004
E-Mail:t.doi@nifty.com

府議109名を88名へ削減！ 結果、「田尻町・泉南市・阪南市・岬町」の選挙区で、府議1名に。

『大阪都構想』過去の議論の積み重ね

太田房江知事時代：大阪新都構想（大阪府）
昭和40年代の中馬市長時代：市域拡張論
昭和20年代：大阪商工都の府議会の決議
60年以上前から、語り継がれ議論されてきた大阪府と大阪市の再編問題。

果たさなければならぬ約束がある！
行こう 次の時代へ！ 残そう 次の世代へ！

大阪都構想

大阪都の使命

「有事」の際に、首都機能の代替を担い、
「平時」には、世界の都市間競争に打ち勝つ。
強力な「広域自治体」を作り上げる。

住民サービスは、「基礎自治体」で徹底的に行う。
(特別区は、区長・区議を公選・区議会を設置)

以上のように、『大阪都構想』が目指す方向は、4年前から何ら変わっていません。二重行政の解消は、当然、都構想に内包されているものです。

『大阪都』は、強大な権限が集中した自治体が誕生するというご批判がありますが、あたりません。現在でも、順次、大阪府は府内市町村に対して、「特例市並み」の権限を委譲して行っています。「住民サービス」の充実は、市町村の権限強化が必要だからです。

資料は、私のホームページ (<http://www.tdoi.net>) にリンクしましたので、ご覧下さい。

『大阪都』で担いたいのは、大阪全体で行った方が効率的な分野、そして、大阪全体の成長に関する分野の権限です。

まず大阪の中心地を「大都市」として再生させる。ニューヨークやロンドンなど「大都市の再生」は、世界的なニュースになるくらい大変な作業です。これで、東京一極集中を止める。大阪に、人、物、金、情報が集まり、企業も雇用も、そして成長も確保する。

次に、大阪へと呼び込んだ企業や人を府内市町村は、自分のまちへ呼び込むための善政を打っていく。特に、泉州地域

は関空の近さや居住環境の良さなど、潜在能力が高いのですから、現状よりも容易く自信を持って、民間も首長・議会そして行政も取組を進められます。その取組を大阪都が大阪全体の権限を有するのですから、大きく支援をしていく。

このように、大阪都の物語は、我々の世代から、子どもたち、孫たちへと続いていくわけです。

ただし、何の努力もせずに輝かしい未来が来るわけではありません。それぞれの時代に、それぞれの世代が、最大限に能力を発揮し、取組んで、始めて道は拓かれていきます。

大阪に住む我々が、同じ最大限の努力を払ったとして、現状維持の道を進む方が輝く未来への可能性が高いのか、それとも、大阪都構想の道を進む方が輝く未来への可能性が高いのか、ということです。

大阪都構想へ 府の組織など

◎『大阪府市統合本部』の設置

①二重行政の解消

府と市の消防学校や信用保証協会など、統合出来るものから順次開始。

◎『大阪府市大都市局』の設置

新たな大都市制度の実現に向けた制度設計＝協定書の作成を担う。大阪市の業務を都（広域）と特別区（基礎）、民間の②「事業分け」完了。

◎大阪都構想の『法定協議会』

③住民投票に附すための大阪都構想協定書の作成

『法定協議会』今までの議論

法定協：平成25年2月から平成27年1月13日まで、計21回開催
条例に基づく協議会「大阪にふさわしい大都市制度推進協議会」：計7回
橋下知事時代の条例で設置した協議会：7回
大阪都構想について、合計35回の会議が開催。議事録や資料の量も膨大。

二重行政解消『大阪府市統合本部』

大阪府議会・自民党は、二重行政の解消は「大阪戦略調整会議」で可能で、大阪都構想は不要だと主張します。すでに、二重行政の解消を目指して、『大阪府市統合本部』が設置されています。同じような会議を作る必要はなく、しかも現在の知事と市長が特別な関係だからこそ協議が可能であって、これを制度的に一つの組織にし、恒久的なものとするのが大阪都構想です。調整会議のような協議調整の場では、二重行政の問題を解決しきることはできません。

下表の通り、府議会で賛成でも、市会で反対で改革案件がとん挫。この現実をきっちり直視すべきです。可能というならば、明確な根拠を示す必要があります。

「二重行政を解消する議案」が、府議会・市会で否決されている項目

項目	議案	市会	府議会
公衆衛生研究所 環境科学研究所	大阪健康安全基盤研究所の共同設置、研究所廃止条例等	× 26年12月	○ 25年12月
病院	府市共同住吉母子医療センター(仮称)整備事業費予算	× 26年5月	○ 26年3月
大学	大学法人の定款変更、中期目標の変更	× 25年11月	(上程せず)
港湾	府市港湾委員会の共同設置、港湾審議会の共同設置等	× 市会否決を受け 26年9月	× 26年10月
産業技術総合研究所 工業研究所	両研究所の新設合併、評価委員会の設置等	× 市会否決を受け 26年9月	× 26年10月

大阪都構想を支持する 長谷川豊 元フジテレビアナウンサー

～(省略)～さて、2015年、今年も様々なことが起こるだろうが、現在分かっている中で筆者が注目していることの一つに「大阪都構想」が挙げられる。～(省略)～しかし、橋下氏の戦い、懸命な姿勢は見えて信念という柱が通っていると感じる。

～(省略)～橋下氏にとってはうっとおしいことこの上ないと思うが、マスメディアはこれからも変わらずに批判的な視線も提示し続けてほしいと、筆者は考える。しかし、それ以上に、この橋下氏のツイートには賛同し、声援を送りたくなる言葉がとてとたくさん並んでいる。

・政治家と学者、評論家の決定的な違いは、世の中のここが問題だと感じたときに、それを実際に正すかどうか。学者、評論家の類は、言うだけ。政治家はたとえわずかであっても改善することが役割だ。

・もがき、あがくことが評価される社会じゃないと、誰もやらなくなる。国民全員が評論家的に

なったら国は沈没だ。すかして評論する連中よりも、ぶさいくにもがき、あがく連中が評価される社会を目指したい

同感だ。筆者も情報番組の取材者として、13年間にわたり大手テレビ局の、しかも大変に視聴率の高い番組から、情報を発信する側の人間として働いてきた経験から、同じように感じていた。政治家たちはES細胞のように万能ではないし、時には情けない姿も見せるだろうが、それでも、未来のためにもがき、苦しもうという人を、ただ非難していればよいとは思えない。選挙終了直後のブログにも書いたのだが、土俵に上がらず、リスクも取らず、大した実績も持たずに評論家ぶり、立候補者や選挙に臨む人たちを馬鹿にした論調を書いて悦に入っている情けない人間は、残念ながらこのBLOGOS上にも散見される。そんな連中がいったい何の実績を残してきたのか知らないが、選挙に出て未来のために命を使おうとする人間たちを、考えなしにバカにするものではないと思う。～(省略)～突っ込みどころ満載であっても、少なくとも、彼はもがいている。もがいているのは「未来の大阪の人々のため」だと思う。そこはぶれてない気がする。

・大阪都構想も100%完璧なものではないだろう。しかし今の大阪府・大阪市と比べてどうなんだ?という議論が全く欠けている。大阪都構想に色々批判が加えられているが、今の大阪府・大阪市の体制で、大阪の政治行政はどわけだけ酷いものになっていたか。そのこととの対比が必要だ。

・大阪の政治行政がうまく回っていたなら、僕が政治家になる必要もなかった。政治家は現状維持では意味がない。常に、以前よりもましになることを目指さなければならない。

その通りだ。特に「今と比べてどうなんだ?という議論が抜けている」という指摘は全くその通りだ。もちろん先述したように、批判的に論を展開することは間違っていないと思うし、そのままでもいいと思う。だが、有権者たちは「そもそもマスメディアは批判的なことをいう機関なのだ」というメディアリテラシーの視点をしっかりと持つべきだろう。日本人は「現状」が好きだ。

「変わることに」ビビる人間は少なくない。しかし、勇気をもって変わっていかないと、経済は衰退し、人口は減り続け、世界からはヒンシュクの目で見られ続ける、そういう時代こそに入っているという現実をちゃんと直視しなければいけない。アホみたいにご労働人口が増え続け、ほっといてもGDPが増加する、そんな時代はもう20年も前に終わってる。なのに、日本人はその前の50年間、「ほっといても」成長し続け、「関心なんて持たなくても」生活がよくなり続けていたので、それでいいと思ってしまっている人が少なくない。橋下氏はそこにメスを入れようとしていることは事実だと思う。なので、反発があることも当然だと思う。

橋下氏は当該ツイート記事をこう締めくくっている。

・100%正しいかどうかは分からない。でも、少しでも良くなることを信じて、行動を起こさなければ、現状が変わることは永遠にない。改善を目指すことが社会の構成員としての使命だ。すかして悲観的に評論するよりも、ぶさいくにもがき、あがこう。

～(省略)～関西で生まれ、大学卒業までをずっと関西で育った筆者にとって、橋下氏の挑戦は少なくとも、チープなドラマや金ばかりかけたハリウッドの映画よりも関心の持てるテーマであることは間違いない。～(省略)～橋下徹はまだ終わっていない。むしろ、彼の挑戦のクライマックスは、まさにこれから始まるのだ。見逃すと損をする挑戦が、今年5月中旬に行われる。何があったのかは知らないが、公明党の姿勢転換により、大阪都構想を問う、住民投票が行われるのだ。こんな画期的な事態が、日本の政治シーンに、最近あったらどうか?かっこ悪くて、ブザマ。週刊誌には絶賛も書き立てられた。それでももがき、あがき続ける。そんな政治家が、日本にいてもいいと思う。少なくとも、筆者は、現段階において…

橋下徹氏と大阪都構想を支持する。